

実施日：2018年10月, 11月	
領域：総合的な学習の時間	
取組名：バリアフリーとユニバーサルデザイン	
対象：4年生	実施場所：教室
ア ねらい <ul style="list-style-type: none"> 障がい者、高齢者、小さな子どもを連れた人や妊婦、外国にルーツをもつ人への配慮が、自然と生まれる社会について、自分たちの生活をふり返りながら考えさせる。 社会の取り組みのよいところ、これから改善が求められるところを考えながら、主体的に社会と関わっていく態度を養う。 	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> 高齢者体験を通して、どんなことが困るかを体験させる。 バリアフリー、ユニバーサルデザインについて理解させる。 ユニバーサルデザインを活かすためにどんなことができるかを考え、困っている人に手を差し伸べることで、普段から社会のルールやマナーを守る大切さに気付かせ、実践しようとする姿勢を身に付けさせる。 ハンディキャップについて考え、「～だから」「～だって」という意識でなく、人はみな同じであるということに気付かせ、決して人を区別・差別しない姿勢をもたせる。 	
ウ 連携先：加古川市社会福祉協議会（体験キットを借用）	
エ 連携にむけての取組 加古川市福祉協議会から体験キットを借りてきて、児童はペアを作り、一人が実際に足を不自由にさせた状態で、校舎内を歩き回ってみる。もう一人がその補助をする活動をおこなった。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> 学年で取り組む上で、児童が考えているであろう障がい者や高齢者への認識を話し合っ確認した。現在では祖父や祖母といっても、まだまだ若い方もいて、児童(特に外国籍児童)の中にはイメージを共有しにくいことも考え、あえて祖父や祖母を例に出さず、写真や図を使った。 間違っった思い込みや何の考えもないことばが、高齢者、障がい者、妊婦、外国にルーツをもつ人たちを傷つけたり偏見を生んだりすることを指導することに努めた。 高齢者や障がい者の方々への自分の考えを理由ときっかけを明らかにしながら、文章にまとめた。また、授業中の態度や発表、感想等からも評価した。 	
カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> 発表 ワークシートによる個人の感想の記入 	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級の児童に対して、通常学級の児童は手助けをすることが多かったが、がんばろうとしていることを待ったり認めたりする場面が増えた。 「障がい者だから手伝う」といったように、ハンディキャップをもつ人を弱者と捉えて手を差し伸べるのではなく、誰に対しても同じように助け合うという考えをもつことができた。 一人一人が住みよい社会にするためにできることを考え、自分にできることをしようとする姿勢をもつことができた。 	
ク 課題 <ul style="list-style-type: none"> 学んだことをこれからの自分の生き方について根拠と理由を明確にして文章でまとめたが、実生活で実践できているかどうかを振り返る手立てが必要である。 児童がまとめた文章を見ると、児童によって大切であると考えていることに差があり、ねらいを達成できていない児童もいる。 	

※ 学習指導案、人権教育資料やその指導例、児童・生徒・参加者等の感想や活動写真、アンケート結果等、参考となる資料を添付願います。